RX－78

～ to X people, who can Realize your dreams and are Reliable. ～
夢を実現し、信頼される未知なる（可能性を持つ）者たちへ

北海道中標津高等学校
第 78 期一学年通信
2025(令和 7)年 2 月 5 日
第 20 号
文責　長谷川敏美

2月になりました。

慣用表現に「一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去る」とあります。「往ぬる」は、ナ行変格活用の連体形（ここではその連用形的用法となります）なので、終止形（基本形）は「往ぬ」で、意味は「行ってしまう。去る。」です。古語ですが、関西方言に「往ね」（命令口調で「あっちいけ。」という意味）という言葉が残っています。冒頭の慣用表現を現代風に表現すると、

一月は行ってしまう、二月逃げる、三月は去る

となります。ほとんどかわりませんね。それぞれ、一月は「い」、二月は「に」、三月は「さ」と、数字の読みのはじめの音にあわせて言葉を続けています。この慣用表現の示すところは、

正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうこと

となります。

さて、一月は行ってしまいました。何かすることができましたか？　各自自身の活動をどのように取り組むことができたか、確認してください。もし、活動が不十分だったり、思ったとおりにできなかったりしたというのであれば、改善を図ってください。２月も、それ以降も同じ状況の繰り返しというのはよろしくないでしょう。

生活をしていると好調・不調の波はどうしてもできてしまいますが、「不調」をどのように捉えていくべきか、そのことについて考えてほしいと思います。

例えば、「体調不良」ですが、前日に遊びに行って次の日に体調不良というのは、社会人として終わっています。また、別な例として、「成績の不調」ですが、スマートフォンに気を取られすぎて勉強に向かうことができず、成績が低下してしまっているのであれば、それは、「業務怠慢」と受け止められても文句は言えないでしょう。いずれにせよ、

「不調」がどこにあるのか、「内省的」にとらえてほしいです。

上手くいかないことやトラブルがあって、たまに見かけるのが

他人や周囲の状況のせいにして平然としている人

こういう人は一般に「責任転嫁傾向が強い」です。問題が起きたとき、自分の行動に問題があったのではないかと考えるよりも先に、周囲に責任を定めようとします。「あの人が悪い」「自分の責任ではない」「知らなかった」とためらいなく言うことができてしまいます。一種の「才能」かもしれませんが、あなたの周りで、何かあれば責任をなすりつけてくるような、無責任な人がいた場合、関わりをどのように持ちますか？

「近寄らない／適当な距離を取るのが無難」と考えるのではないでしょうか。

そういう対応をされないためにも、「内省的」であることを意識してほしい。

《※内省的な人とは、起きた出来事に対し、自らの言動を省みることができる人を指します。 自分自身の心の内を意識的に見つめ直すと、考えや行動を変えるきっかけとなります。》

何も、トラブルが起きるたびに「私って、なんてだめなんだろう……。」とか「あのときこうしていれば～。」などと、悲嘆にくれることを求めてはいません（そういうことをしても時間の無駄ですから……）。あなたたちの状態の善し悪しを論ずるよりも、

自身を客観視して、自身の内にある課題と向き合い、課題改善を図るための具体的な取り組み

を求めます。

社会に出る前に、一つでも多く適応力を身につけることを期待します。

進路希望調査より

何割かの人に尋ねたい。例えば……、

進学講習も模擬試験も受けていないのに、「国公立大学希望」

と言われても、共感することが難しいです。希望をするなというのではありません。希望（＝目標）に向かってどのような努力（＝勉強）をしているのか、自身の状況を認識したうえでの「進路希望調査」の回答だったのか。その点に大きな疑問を先生たちは抱いています（他にも「奨学金」のこととか言いたいことがありますが、それは後日に……）。

我々には、様々な「自由」があります。学校選択の自由もその一つでしょう。しかし、先に挙げた「国公立大学」などは、大学での活動がおおよそ進められるであろう「学力」が一定以上求められます。その能力がどの程度備わっているのか、定期的に測定していますか（＝模試の受験していますか）？　また、能力をつけるための日々の努力をしていますか（＝授業とは別の大学進学に向けての学習をしていますか）？

先生方は、あなたたちの進路希望を聞きはしますが、具体的な活動が伴わない人を無条件で支援するほど、お人好しではありません。だって、

「何も勉強していませんが、大学に入りたいんですけど、何か？」ということを推奨していない

という以上に、

何も能力を持ち合わせていない人を大学に押し込むのは、ほぼ不可能

です。学校の先生の指導の範疇を超えています。大学進学希望のみなさん、大学、とりわけ難易度の高い学校への進学は、普段の授業以外の勉強の力（＝家庭学習）も要求されることを認識してください。「力」をつける一年にしましょう！

《保護者の皆様へ》

この時期の学生の傾向として、年が明けて、「目標」をあらためて確認することができたとしても、長期休業明けの開放感を引きずっているケースが多く見られます。お子さんの、特に学習に対するモチベーションが低くなる傾向があります。つきましては、ご家庭でお子さんの様子を見ていただきたいところです。

学習することを「せっつく」ことを求めません（それをしてもらって、お子さんから聞きたくない言葉が返ってくるリスクがあるので。今努力をしなかった場合の話などは学校でいたします）。お子さんの「見えるところでの見守り」をお願いしたく存じます。体は大きくなっていますが、精神的に大人になっているケースは少数です。お子さんの心身のバランスを保つ上でも、「見取り」を大切にしていただければ幸いです。お子さんのちょっとした生活の変化やお困り事などがあれば、学校までお知らせください。

《北海道中標津高等学校　0153-72-2059》

《2月の活動予定》

6日(木)AB 組･7日(金)CF 組:救急救命講習　　8日(土):数学検定
12日(水):制服着こなしセミナー　　16日(日):全経簿記検定、文章読解･作成能力検定
20日(木)･21日(金):一斉委員会　　25日(火):卒業式に伴う振替休業
26日(水):CBA テスト(一年間の学習確認です)　　27日(木):学年合唱コンクール
28日(金):卒業式会場設営･予行

総合ビジネス科の皆さん、連続の商業科の検定受検お疲れさまです。英検・漢検などの検定受検の皆さんもお疲れさまです。模試を受けてきた皆さん、毎回「不意打ち」を食らうような思いでしょうが、粘り強い取り組みに期待します。

上記活動予定となっていますが、単元テストが入ってきます。単元テストは遅くとも「１週間前に告知」されますので、今まで取り組んできている学習内容を振り返って、対応してください。普段の授業でしていることを元に仕掛けられるだけですよ～。学年独自の取り組み（学年合唱コンクール）もあります。「遊びの中に学びあり！」という気持ちで励んでください。「学年合唱コンクール」は非公開ですが、生徒の歌う様子は「限定公開」という形で見られるようにする予定です。